

入選

助けてくれた親切なお姉さん

岡山県 葦高小学校 六年
村上 華音

5年生の頃の冬の時期のことです。いつもと変わらず登校しているとき、1年生の子がつかずいて転んでしまいました。登校班のみんながその1年生の女の子に、

「大丈夫？立てる？」

と、心配して言いました。

けれど、その女の子はずっと泣いていて、「立てる？」と聞いても立ってられなくて、登校班のみんなも学校に行かなければならないけれど、周りには自分たちしかいないしどうしようか、と困っていました。

そのとき、女子高校生二人が、私たちのところに来てくれて、転んだ女の子に、

「大丈夫、立てる？」

と言いました。けれど、私たちが聞いたときと同じで、その女の子は立てません。私はこのとき、「もうだめだ！どうしよう」と思いました。

すると女子高校生は、転んだ女の子をだっこしました。そして私たちに、その子の荷物をあずけ、

「先に行っといいていいよ！」と言いました。私たちは、

「はい。わかりました。」と言い、先に学校に行きました。

私は、大丈夫なのかそのときは不安でしたが、お姉さんたちの言うとおりに、その子の荷物を持ち急いで学校に行きました。もうすぐ、学校に着くというとき、先生が信号のあるところにいました。

それを見かけた登校班の6年生が、先生に転んだ女の子と女子高校生のお姉さんたちのことを話し、先生と6年生はいっしょに、女子高生たちのいるところに向かいました。

私たちは学校に行き、転んだ女の子の担任の先生に、事情を説明しました。その後、その女の子は無事学校に着きました。もし、お姉さんたちがいなかったらどうなるか、と思いましたが、無事一件落着できてよかったです。

お姉さんたちの名前は聞けなかったけれど、私もあのお姉さんたちみたいに、困っている人がいたら助けたいです。こんなことがある前は、助けたいと思っても勇気が出なかったのですが、この経験で実感したように、もし同じことで困っているときや、同じ場合ではないときでも、誰かを助けてあげたいです。

そして先生に事情を話し、いっしょに向かった6年生のことも見習って、困っている人の助けになりたいです。